



北陸大谷学園小松大谷高等学校

学校賞 受賞

JICA国際協力エッセイコンテスト2021にご応募頂き、団体賞を受賞された学校のご担当者様、また訪問表彰時に代表の生徒さんにインタビューを実施しました。エッセイコンテストを学習活動に利用したいけれど、どうしたらいいかわからない、そんな先生方のご参考になりましたら幸いです。

Q ご応募のきっかけを教えてください。

高校生活の中で、様々な大人に生徒を交流させたいと考えています。エッセイを書くことは、自分の想いを伝えるアウトプットの場の練習として有用です。自分の想いを伝えることは、色んな人々と接する中で重要な能力になります。人と接することで、考え方、物の見方が、全く違うことに気がつきます。そうすることで諸問題を解決する糸口になります。小松大谷では、エッセイコンテストの作品を書くことを、「人と接すること」の出発点と位置づけ、そこから国際関係と自分の繋がりを見つめます。

Q どのように実施されましたか？

エッセイコンテストは夏休みの課題として、生徒に書いてもらいました。

Q 国際理解教育を題材とした授業や取り組みはありますか。

2021年度は、このエッセイコンテストを夏休みに実施した後、2学期以降の総合的な探究の時間にQulii株式会社さんとタッグを組んで、国際的な難民問題や紛争問題のドキュメンタリーを見せることで理解を深めた後、自分たちで世界に発信するドキュメンタリー番組を作る授業を行いました。

Q JICAエッセイコンテストを含めた国際理解教育の取り組みの中で、生徒さんの学びや気づきの変化などはありましたか。

あまりにも世界のことを自分たちは知らないということに気づき、自分たちのできることを一生懸命取り組もうとする姿勢が多くの生徒に出てきました。

Q その他、質問や感想がありましたらご記入頂けると幸いです。（自由記述）

今後もエッセイコンテストに毎年取り組んでいきたいと考えています。何卒よろしくお願い致します。

＼番外編！代表の生徒さんに聞きました！／

Q どんな作品を執筆されましたか？

中学生の時にSDGsの観点から食品ロスについて、作文を書いたことがあり、食品ロスについて一定の知識がありました。私は、好き嫌いが多い方で食品ロスをどのように減らすのか考えることはあっても、実践に移すことはありませんでした。例えば、外食時に自分が食べきれないほどの料理を注文し、嫌いな食材を残すことがあり、良くないとは思っていましたが、残さないようにするためにどんな工夫ができるか考えることができました。

日本では蛇口をひねると当たり前のように綺麗な水が出てきて飲むことができます。しかし、この当たり前は世界から見ると稀です。とある国では、水道水が汚くて、害があることさえあります。どこでも綺麗な水が飲めるようになれば、良いし、どう行動することがどこの国でも綺麗な水道水が飲めるように繋がるのか、考えてエッセイを書きました。



▲学校賞の賞状とメダルを受け取っている様子

ご協力ありがとうございました。